



公開ワークショップ「Future Earth推進のための教育と
人材育成：Co-design/Co-productionをどう実践するか」

日本学会議大会議室

2015年9月24日(木) 14:00-16:30

サステナビリティ学における 教育と人材育成

武内 和彦

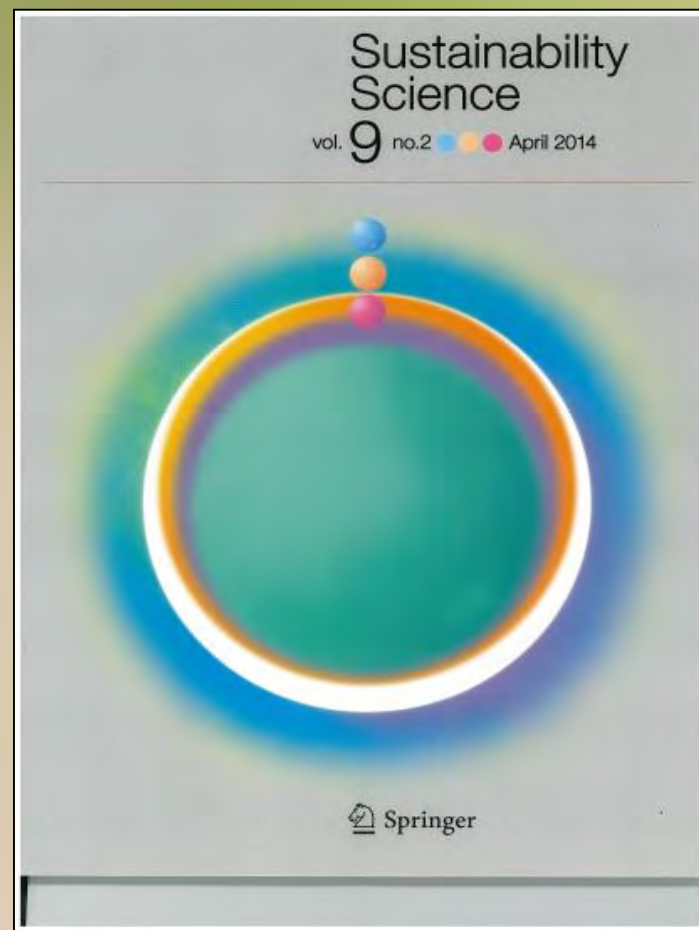
日本学会議第二部会員

東京大学国際高等研究所

サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構長・教授

サステナビリティ学の台頭

- ◆ 21世紀に入ってサステナビリティ学の重要性が国際的に広く認識されるようになる
- ◆ 地球温暖化、生物多様性の減少、開発途上国における貧困問題など地球的課題への挑戦
- ◆ 細分化された個々の学術では扱いきれない地球的課題に対して俯瞰的な立場で取り組む
- ◆ 地域間の公平性や世代間の公平性を重視し、グローバルで長期的な問題解決を目指す
- ◆ サステナビリティ学を通じた地球規模の問題解決には教育を通じた人材育成が不可欠

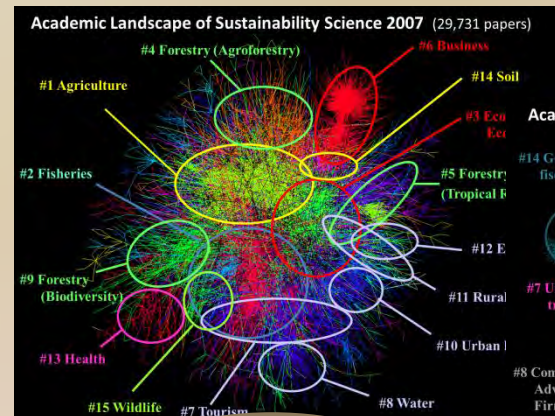
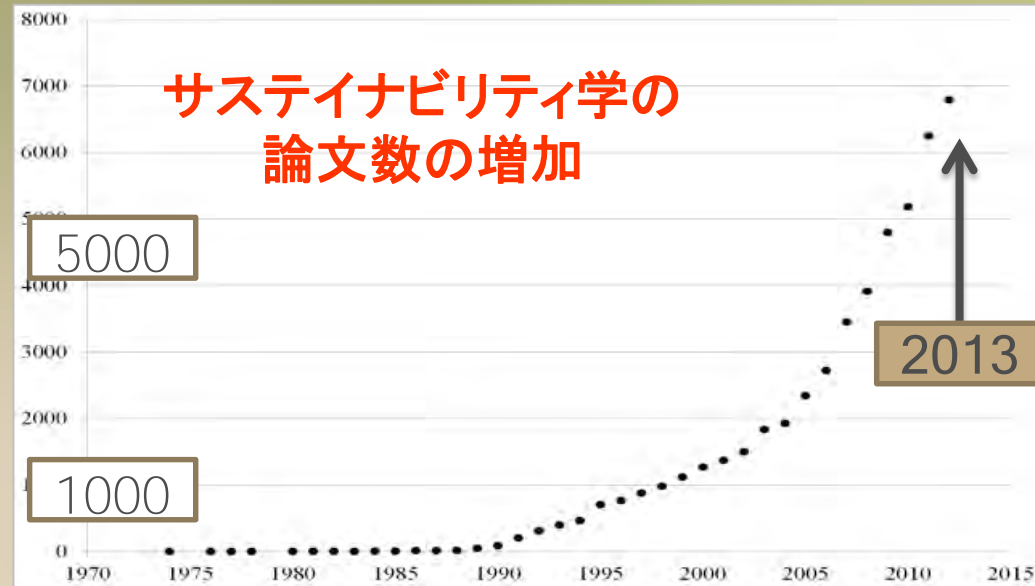


サステナビリティサイエンス
ジャーナル (SSJ), Springer

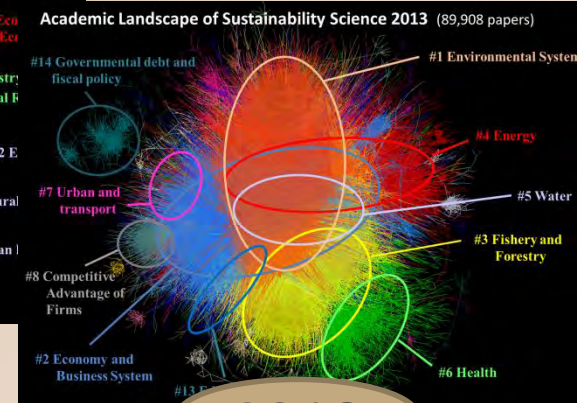


進化するサステナビリティ学

- ◆ 世界各国、とりわけ先進国において、サステナビリティ学研究教育プログラムが次々と誕生
- ◆ 2007年よりサステナビリティサイエンス誌 (SSJ)がシュプリンガー社から刊行され、サステナビリティ学に関する学術論文も急激に増加
- ◆ サステナビリティ学が学融合をもたらし、社会・生態システムのレジリエンスとガバナンスなどが焦点に
- ◆ サステナビリティ学を問題解決に導くために、社会変革をもたらす行動にいかに関わりつけていくかが課題
- ◆ 世界共通のグローバルな課題とそれぞれの地域に固有なローカルな課題を融合させる視点が重要



2007



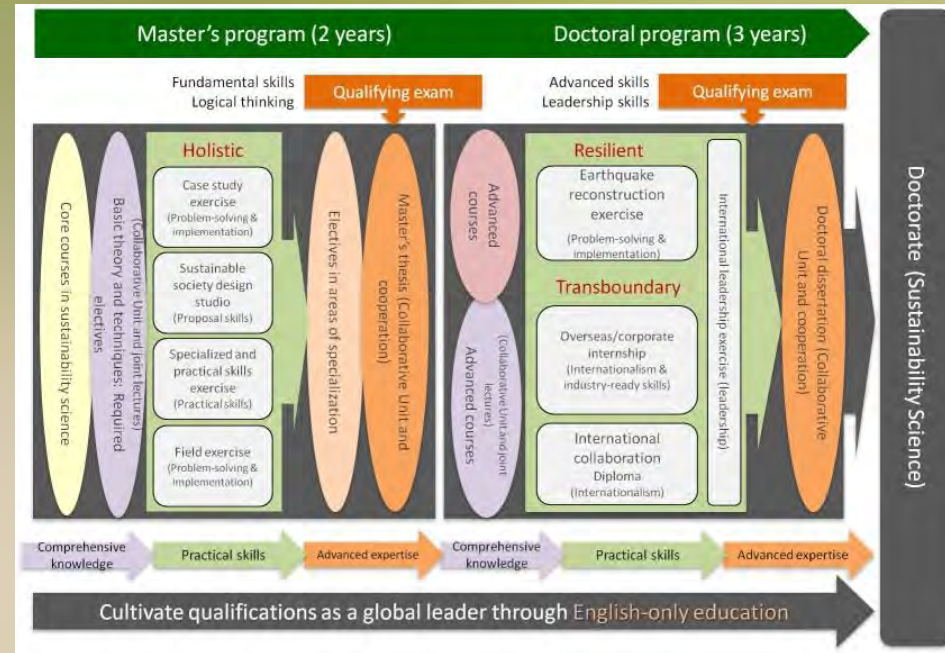
2013

サステナビリティサイエンスによる学術の統合化
(東工大・梶川らによる、SSJ)



サステナビリティ学高等教育プログラム(GPSS)

- ◆ 欧米の大学を中心に主に修士以上のサステナビリティ学教育プログラムが展開される
- ◆ 日本でもIR3Sの設立を契機に、参加大学を中心にサステナビリティ教育が進展
- ◆ 2007年東京大学新領域創成科学研究科にサステナビリティ学教育プログラムを設置
- ◆ 2011年からサステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラムへと発展
- ◆ 2013年から国際連合大学サステナビリティ高等研究所との協働ディプロマを開始



GPSS-GLIカリキュラム



被災地での授業風景

サステナビリティ教育において求められるグローバルリーダーとは

- ◆ 地球的課題の深刻さと複雑さを冷静に見極めつつ、希望をもって将来を展望できること
- ◆ 人間と自然の複雑な関係を、社会・生態システムとして包括的に捉える俯瞰力をもつこと
- ◆ 細分化された学術の成果を構造化し、複雑な問題の解決に結びつける能力をもつこと
- ◆ 多様なステークホルダーの異なる見解を統合化するコーディネーション能力をもつこと
- ◆ 国際社会において持続型社会への変革を促す粘り強いリーダーシップを発揮できること



東京大学柏キャンパス 授業風景



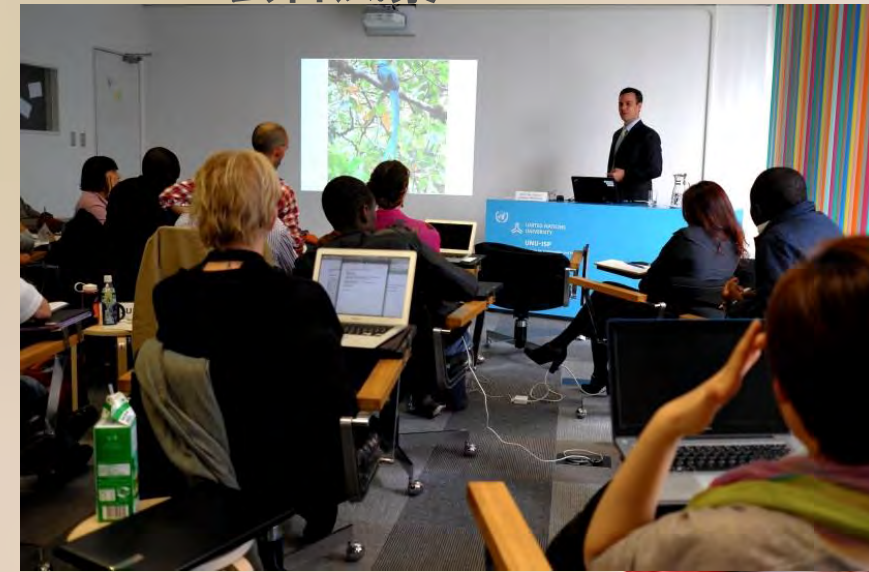
国際連合大学 授業風景

気候・生態系変動への適応に関する大学間ネットワーク (UN-CECAR)

- ◆ 気候変動問題と生物多様性問題を適応策を通じて同時に捉えシナジーを図る必要性
- ◆ アジア・オセアニアのリーディング大学の連携による研究教育ネットワークの構築
- ◆ 参加大学による共通のカリキュラムの開発と、CECARコースの実施による具体化
- ◆ 出身国や専門分野の異なる学生と一緒に講義・実習を受けることで相乗効果が得られる



CECAR会合風景



CECAR実習風景

アフリカにおける持続可能な開発のための教育 (ESDA)

- ◆ 国連大学、日本の大学、アフリカの大学が連携して、修士レベルの教育プログラムを開発
- ◆ ガーナ大学、イバダン大学がハブとなり、持続可能な農業と生計の確保のプログラム開発
- ◆ ナイロビ大学、ケニアッタ大学がハブとなり持続可能な都市と貧困削減のプログラム開発
- ◆ ケープタウン大学、ザンビア大学がハブとなり持続可能な鉱物資源開発のプログラム開発
- ◆ 国連大学が、ESDAコンソーシアムの事務局として、国際人材交流を促進する窓口となる



ESDA会合(ケープタウン)
(2010年8月30-31日)

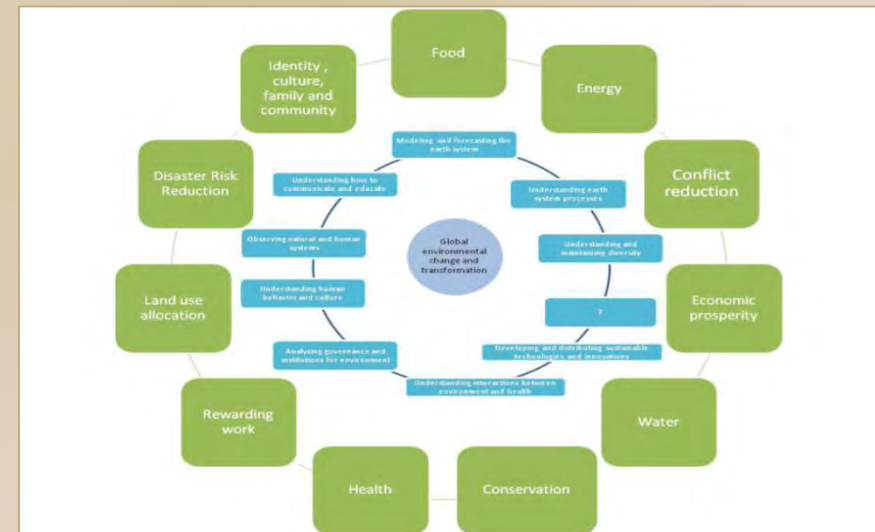


ESDA実習風景



超学際性TransdisciplinarityとFuture Earthイニシアティブ

- ◆ 世界科学者会議 (ICSU)は、文理融合による超学際性の追求をこれからの大きなテーマに掲げる
- ◆ 超学際性では、細分化された専門分野間の融合とともに学術と社会の融合が重要
- ◆ さまざまな地球環境研究の取り組みが統合化され10年間のFuture Earthプログラムに
- ◆ 統合のための共通のプラットフォームをいかに構築するかはFuture Earthの大きな課題
- ◆ 教育と人材育成については、日本の大学・研究機関がコンソーシアムを形成して推進



Future Earthの構成と組織ロゴ

